



佐賀県  
景観情報誌  
vol.6  
**美しさ**  
さが

特集  
佐賀市長崎街道・柳町

景観まちづくりの可能性

― 神埼・吉野ヶ里 ―

美しい田園風景の中をクリークが縦横に広がり、独特の景観を作り出している神埼。弥生時代の最大環濠集落跡を擁する吉野ヶ里など、歴史と自然が残る町ではどんな景観づくりができるのでしょうか。昨年11月に神埼市で開催した「景観シンポジウム」において、東京大学・西村幸夫副学長に他県の事例などを交えながらまちづくりのヒントをいただきました。その一部をご紹介します。

〇よそにはない美しい景観  
神埼・吉野ヶ里

神埼の平野部には田園風景が広がり、クリークが縦横に走っていて水も豊かです。江戸時代とほとんど変わらない集落が残っていたり、クリークでは釣りやスケッチなどをやつたりと楽しむ人を見かけたりと、よそにはない風景です。歴史もあり、江戸時代に長崎街道の宿場町として栄えた神埼宿には曲がり角がいくつもあり、その先には何があるのだろうと期待させる魅力的なまちです。弥生時代最大の環濠集落跡がある吉野ヶ里歴史公園とその周辺には自然が作りだした川や山があり、弥生時代の農村風景はこうだったのかという印象を強くします。城原川を上っていくと、白角折神社に見事な楠の大木があり、自然からも歴史を感じ取れます。この地域には分らない魅力的なところがたくさんあります。航空写真や地図などを利用して俯瞰し



西村幸夫副学長

て見ると、全く異なった角度から自分の町を見直すよい機会になるのではないのでしょうか。

〇普通の「通り」も見方を変えれば  
かけがえない場所

何の愛哲もない町も、「通り」の変化を手がかりにするとき良さが見えてきます。佐賀城下は戦災を受けなかったため、古い通りがいくつかわ残っていますが、新しい町を作る時は、駅や道を新たに作る必要があり、例えば長崎街道は車社会では都合が悪く、お堀のところに道を通したり、県庁へ向かう道を作っています。そこを見ると、町のいろんな表情や新しい道を作る努力の跡が垣間見えます。歴史的に面白いところに光を当てると、単に「通り」としか思わなかった場所の良さが分り、大切に思えるようになってきます。

〇市民からはじまる  
まちづくり

新潟県村上市は人口6万人ほどの静かで小さな城下町。15年ほど前、商店の若旦那が、店を歴史的な雰囲気に変えてロマンを持った店づくりを始めた。その後数軒で一緒にいったのが、町屋の人形さまた

巡りです。かつての町人街には古いおひな様が残っています。約70軒の家が協力してひな祭りの時期に1カ月ほど飾りました。すると、お祭りのある香国の家の中を見ることができ、珍しさもあって、人が訪れ始めました。それから春以外にも風習をイベント化して見せたり、新潟から村上市に向かうためのS1列車を走らせたり、いろんなことが同時進行で始まり、広がりを見せます。人形さまの説明をしたり、お茶を出しているうちに、お年寄りが元気になる相乗効果もありました。今では多くの観光客が訪れます。

景観整備で面白い視覚効果が「黒瀬プロジェクト」イベントに訪れた人に1枚1000円で板を買ってもらい、その板を裏通りに並ぶ寺を取り囲むブロック塀に打ち付けてもらって、景観整備に参加してもらっています。

また、町中で募金活動を行い市民による「町屋再生基金」を設立。町の景観づくり、再生に役立っています。これまで15店舗ほどがアルミサッシを昔ながらの格子に替えるなどして周囲に溶け込める雰囲気を増やしたり、自分たちで木の植樹を続けています。

〇魅力的な資源を活かして  
まちづくりの仕掛けを

村上市のようなことは、どこでもできると思っています。神埼だとクリークを利用して船で巡る仕掛けや建物の外観の色を変えるなど工夫次第で町はよく変わります。例えば神埼は割烹料理屋が多いのですが、一般に割烹は敷居が高いところで、イベントのように1日だけ簡単な料理が食べられるようにすると、行きやすくになります。

自分も旅人のようなつもりで町を見る機会を作ると、自分の町の良さが分かってくるのではないのでしょうか。すると、もう少しこのことはこうの方がよいなどの発想が浮かび、皆が同じ思いに至ると「今度はこうしよう」という話が起こり、わずかずとも進むわけです。



西村幸夫 氏  
東京大学副学長、  
東京大学大学院工学系研究科教授

<プロフィール>  
専門は都市計画、都市保全計画、都市景観計画、市民主体のまちづくり論など。

INFORMATION

平成23年度佐賀県遺産に認定しました。

浜の浦の棚田  
東松浦郡玄海町

佐賀県遺産とは、佐賀県内の地域の宝といふべき景観が美しい地区や地域のシンボルとなっている建造物です。平成23年度には、新たに1件を佐賀県遺産に認定しました。



美しささが

佐賀県景観情報誌 Vol.6  
平成24年3月発行

発行/佐賀県 県土づくり本部 まちづくり推進課 景観担当  
〒840-8570 佐賀市内1丁目1番59号(県庁新行政棟8階)  
TEL 0952-25-7326 FAX 0952-25-7314  
✉ machidukuri@pref.saga.lg.jp

# 郷愁と新鮮さを併せ持つ レトロな町並みが 地域住民と訪れる人を結ぶ

そこだけ時がゆっくり流れているような佐賀市柳町界わい。長崎街道沿いとその歴史と往事の趣きを残す建物が、新しい魅力を醸し出しています。



長崎街道に面する  
風情残る柳町界わい

車が頻繁に行き交う県道30号から東へ二歩長崎街道に入ると、そこだけ時がゆっくり流れているかのような錯覚に陥ります。ここは佐賀市柳町。

江戸時代より長崎街道として人やものが行き交い、明治、大正期においても豪商や銀行が立ち並び、商業や金融業の中心地として活気あふれていました。東西約300メートルの通りには、大正時代の洋風建築様式を今に残す旧古賀銀行その創設者の住宅であった旧古賀家、佐賀の旧城下町で最も古い町家を移築・復元した旧牛島家、明治初期の銀行の面影が残る旧三省銀行、大正時代の近代和風建築の粋を集めた旧福田家など歴史の生き証人でもあるレトロな建物や土蔵造りの家並みが続き、今も往時の風情が色濃く残っています。

## 静かな町が二変する 「佐賀城下ひなまつり」

日ごろは静かな通りですが、賑やかに変するのが12年前に始まった「佐賀城下ひなまつり」の期間。重厚感ある小城鍋島家伝来古今雜



旧古賀銀行内部

や佐賀藩の神の文様「鍋島小紋」や伝統的な織物「佐賀錦」を身にまとったおひなさまなど江戸時代のものから現代に至るまでの多種多様なひな人形が、会場の佐賀市歴史民俗館だけでなく商店街や民家にも並び、毎年県内外から訪れる約8万人の観光客を出迎えます。

## 住民も観光客も ともに楽しさ共有

### 「柳町まちづくり協議会」

観光客に町を楽しみ、親しみでもらうために、清掃活動やお茶のまもりなど「佐賀城下ひなまつり」を支えているのが、地域住民や商店主でつくる「柳町まちづくり協議会」です。同協議会は「じゅんゆうひなまつり」など独自のイベントも展開。



昨年3月に行われた「じゅんゆうひなまつり」  
節誦小3年、6年の生徒、藤影幼稚園など園児たちが作成した灯明飾りで幻想的な世界を演出したり、高校生や中学生の吹奏楽部が楽しい演奏を披露しました。



(左から) 柳町まちづくり協議会 副会長・菅謙一郎さん、会長・橋本新一さん、三根抱一さん。「子どもたちは神社などに集まってよく遊びました。佐賀劇場という芝居小屋もあったんですよ」

**佐賀城下ひなまつり**  
佐賀市歴史民俗館  
期間 開催中〜3月20日 祝火  
観覧 開催中〜3月31日(土)  
時間 午前10時〜午後5時  
料金 共通600円(前売り500円)  
※小学生以下は無料

## 私たちの 景観づくり

# 櫛田宮・長崎街道の 歴史文化を活かしたまちづくり

CSOかんざき 事務局長 吉原俊樹さん

神埼は平安末期、中国・宋との貿易拠点として栄え、江戸時代には長崎街道有数の宿場町として賑わっていました。創建1900年といわれる櫛田宮を中心に街道沿いには商業が発展し、その賑わいは昭和に入っても続きました。

そんな歴史ある神埼で「CSO(市民社会組織)かんざき」は、文化や歴史を継承しようとして2006年に設立。宿場まち実行委員会など各種実行委員会の手伝いや、社会市民団体の中間支援組織として官と民だけでなく、民と民をつなぐ役割も担っています。運営は櫛田宮の門前町を始めとした長崎街道沿いの自治会など地縁で結びれた人たちが参加しているのが特色。地域の課題を自分達の課題としてとらえるのが強みです。

まちづくりをテーマに活動してきました。1年目はまちの資源を見つめ直そうと「愛資源調査」を実施。2年目はまちづくりのヒントを得るため、各地を視察。数々のワークショップや研究会などを重ね、地域再生には住民が主体となるべく具体化していくのが大切だと実感しました。今年には事業最終年、まちづくりのモチベーションを維持するため、商工会・観光協会など地域住民が主体となってその旨行っていた「市を復活させ」かんざき櫛田の市」を始めました。出店業者は現在、県内外から約35店あり、地域にも浸透してきました。

人とのつながりをより固くし、誇りを持つ地域の良い姿を次世代につないでいけるような活動を今後も続けていきます。



750年前から続く神事「みゆき大祭」。県の重要文化財の女神祭(だいかぐら)。約5行判など総勢約800人の行列が華やかな時代絵巻を繰り広げます



CSOかんざき 事務局長 吉原俊樹さん



櫛田宮そばで毎月第1土曜に開催される「かんざき櫛田の市」。野菜や果物、海産物などがずらり。

## 古民家を活かす

### 旧森邸

### フレンチレストラン びすとろ Monji

森田市曾根崎町



森田市曾根崎町1311  
電話 0942-84-8303  
営業時間 11:30-13:30(L.O.)  
カフェタイム 13:30-17:00  
18:00-20:00(L.O.)  
料金 ランチ1,050円、ディナー2,900円(ドリンクは要予約)  
定休日 日曜

サッカーJ1チーム「サガン鳥栖」のホームグラウンド「ベストアメニティスタジアム」に近い閑静な住宅地にある「びすとろ Monji」。オーナーシェフ・門司康男さんと千衣子さん夫妻が11年前、空き家だった築約160年の古民家を親戚から借り受け、フレンチレストランとして再生しました。

同店はその昔、庄屋として栄えた門司さんの祖母の実家(旧森邸)で、自身も幼いころに正月に訪れるなど楽しい思い出が詰まった場所。まだ使える梁などはできる限り残して、広い庭に面した8畳2間の応接間をお客さんが食事をする板張りの部屋にし、かまどが据えられていた台所は厨房に改装しました。

新たな息吹を注ぎ込まれた古民家は「お年寄りには「懐かしい」と表情を緩め、若い人は「何だか、気持ちいい」って笑顔になるんです。古い家は人の心の扉を開いて、癒やしてくれますね」と、門司さんは古民家の持つ力を感じています。

癒やしの空間では、門司さんの両親が作る無農薬野菜など体にやさしい食材を使ったランチが提供されます。肩肘張らずに気軽に食べられるよう、お客も準備。ここでゆったりとした時間を過ごすお客さんも多いとのこと。いつもとは違った時間の流れの中で癒やしを感じてみませんか。



高橋

## 私の好きな景観 LOVE 高橋

佐賀市歴史民俗館長 吉松 潤二

長崎街道の西の入口で本庄江川に大きく架かる橋が、「高橋」です。佐賀藩時代には、東の「構口」と同じ番所がありました。

本庄江の船着場であったので、航行に支障がないように橋桁が高くなっていてその名の通り、「高橋」と呼ばれるようになったと云われています。

橋の近くには、旧長崎街道が通り、かつて長崎奉行やドイツ人医師・シーボルト一行が歩きました。きっと彼らもこの川の音を聞きながら、江戸へ向かったのかも知れません。そんな風情が感じられる、私の好きな佐賀県の景観です。